

メガイアワビの種苗生産

(栽培漁業種苗生産事業)

開内 洋・奥田 進

1. 研究の目的

中間育成用種苗、放流用種苗および養殖用種苗として殻長8～15mmサイズ30万個の生産を目指して生産し、配布する。

2. 研究方法

(1) 平成17年度採卵分（中間育成～出荷）

中間育成は屋外の10m水槽13基を用い、塩ビ製の黒色シェルターを1槽当たり22枚敷いた。飼育海水（生海水）の換水率は毎時1回転とした。晴天時は95%遮光幕で遮光した。餌料はアワビ用配合餌料と生アラメを週3回程度、飽食量を給餌した。底掃除は週1回～5日に1回全排水で行った。出荷の約1週間前に剥離し、選別、計数（重量換算法）を行い、出荷した。

(2) 平成18年度採卵分（採卵～珪藻飼育）

親貝は、平成18年7～9月にJFしまね浦郷支所で約160個を購入し、親貝養成して採卵に用いた。採卵は11月上旬～12月上旬にかけて、1週間間隔で4回行った。採卵誘発は前日から夜間止水法を行い、採卵日の朝からUV照射海水と海水加温（自然水温5℃程度昇温）を組み合わせで行った。卵は洗卵した後、1tの孵化槽2基に収容し、幼生を4～5日間飼育した後、採苗に用いた。採苗は屋内の6m水槽7基と3m水槽2基を用いて、上げ採苗を行い、幼生を波板に付着させた。5日～2週間の屋内飼育の後、屋外の珪藻飼育では、10m水槽へ移動した。飼育水は、屋内水槽では濾過水、屋外水槽では生海水を使用した。搬出後は、珪藻を維持するための遮光を適宜行い、採苗後、約1ヶ月目から週1回程度の全排水掃除を行った。また、週1回採苗枠を上下反転させ、珪藻の管理を行った。

3. 研究結果

(1) 平成17年度採卵分

平成18年2～8月は1部の水槽を除き、摂餌状況が良く成長も良好で、出荷まで順調に成長した。8mmサイズは、隠岐道後水産種苗センターへ平成18年5月に12万個、15mmサイズは益田種苗センターおよび養殖業者へ平成18年6～8月に20万個の出荷を行った。15mmサイズの出荷が遅れたのは、受け入れ先施設で赤潮の発生があったためである。

(2) 平成18年度採卵分

親貝は採卵後、防疫対策として、全数処分した。採卵には延べ104個の親貝を用い、総産卵数は5,134万粒で、受精率79%、採苗約1ヶ月後の付着数は約69万個、付着率は3.8%であった。本年は珪藻飼育時の遮光の時間を長くしたためか、珪藻の状態が悪く、珪藻飼育初期に斃死が起こったが、2月中旬以降は斃死も止まり、以後順調に生育している。

4. 研究成果

中間育成後、県内全域の沿岸に放流が行われる予定である。